



このコーナーは新刊の心理学関連書籍を著者自らにご紹介いただくコーナーです。

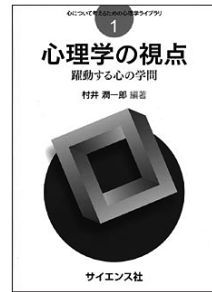
## 心理学の視点 躍動する心の学問

村井潤一郎

本書は「心について考えるための心理学ライブラリ」の最初の1冊として出版されました。本ライブラリでは「心について考える」ことを促すしかけとして、章末に「問題と解説」を設けました。章末の「問題」はよくある試みですが、本ライブラリでは「問題」の直下に余白（メモ欄）を設け、読者に思考のタイミングを提供するとともに、続く「解説」で、比較的自由な筆致で、書き手の個性を押し出した説明をします。教科書として用いた場合、受講生は授業中思わずこの部分を先取りして読

んでしまうかもしれません。また、章末部分はレポートにも使えるでしょう。

本ライブラリで、本書は心理学の概論書に当たります。心理学の本の中でも、概論書は特に豊富に出版されていますが、本書の持ち味は何でしょうか。概論書として一定の網羅性を保つ一方、内容に偏りを持つ部分もあるのですが、そうした偏りこそが、心理学的視点の形成に寄与するのかもしれませんが。本ライブラリは、本書以降「〇〇心理学の視点－副題」というタイトルで出版が続きます。



編著 村井潤一郎  
発行 サイエンス社  
A5判 / 288頁  
定価 本体2,200円＋税  
発行年月 2015年12月

むらい じゅんいちろう  
文京学院大学人間学部教授。専門は社会心理学、言語心理学。著書はほかに『はじめてのR：ごく初歩の操作から統計解析の導入まで』（北大路書房）、『Rによる心理データ解析』（共著、ナカニシヤ出版）、『嘘の心理学』（編著、ナカニシヤ出版）、『Progress & Application 心理学研究法』（編著、サイエンス社）、『ウォームアップ心理統計』（共著、東京大学出版会）など。

## 心理学の 卒業研究ワークブック

発想から論文完成までの10ステージ

小塩真司・宅香菜子

テキストの内容は、著者自身が教える状況を抜きに語ることはできません。著者のうち小塩は現在1学年15名前後のゼミ生を抱えており、その中にはほとんど心理学の授業を受講してこなかった学生も含まれています。そのゼミは2学年合同で行われており、個別の指導時間は極めて限られています。本書は、そのような状況下で指導の助けとなるように、またそのような状況下であったとしても、少しでも高いレベルの研究に結びつくようにと願いながら構成を試みたものです。また著者のうち宅

は海外の大学で教鞭をとっています。米国の研究状況や海外の研究に目を向けるように促していることも、本書の特徴のひとつです。

本書は、70のステップを通じて学生が卒業研究を完成させることを目指しています。このように書く「そんなにステップがあるのか!」という反応や、「たったそれだけしかないのか!」など様々な反応があるでしょう。卒業研究は一回限りかもしれませんが、状況によっては将来を左右することもあります。皆さんが置かれた状況は、どのようなものでしょうか。



共著 小塩真司・宅香菜子  
発行 金子書房  
B5判 / 176頁  
定価 本体2,500円＋税  
発行年月 2015年9月

おしお あつし  
早稲田大学文学学術院教授。学部では文化構想学部現代人間論系、大学院では心理学コースを担当。専門はパーソナリティ心理学、発達心理学。

たく かなこ  
ミシガン州オークランド大学心理学部准教授。授業は統計、研究法、個人差及び文化差の心理学を担当。専門は臨床心理学。



共著 新美亮輔・上田彩子・横澤一彦  
 発行 勁草書房  
 A5判 / 308頁  
 定価 本体3,500円＋税  
 発行年月 2016年2月

にいみ りょうすけ  
 新潟大学人文学部准教授。専門は知覚心理学、認知心理学。論文はDo we know others' visual liking? (共著, *i-Perception*), Consistency of likeability of objects across views and time. (共著, *Perception*)。『東京帝国大学航空研究所航空心理部に見る日本の応用心理学の成立と拡大(心理学史・心理学論)』など。

# オブジェクト認知

統合された表象と理解

新美亮輔

顔認知・文字認知・情景認知も含めた、本邦初(おそらく)のオブジェクト認知オンリーの心理学書です。それぞれの専門家が、古典的理論から最新のトピックまで幅広くいねいに解説しました。知覚とは外界の事物の認識であり、つまりオブジェクト認知(物体認知、対象認知)に他なりません。その意味でオブジェクト認知は知覚心理学の王道だと(筆者は)思っているのですが、色や形の知覚に比べて顔や文字や電車やカエルといった現実の物体の認知は複雑で、なかなか理解しづらい部

分があるのは事実です。そのためか、教科書では棒や箱を組み合わせさせて物体の構造を表現して……という古典理論にとどまりがちですが、その後の脳機能計測研究ブーム、近年のコンピュータ・ビジョン研究ブームを経て、実は今とても領域横断的かつダイナミックな展開を見せている分野なのです。オブジェクト認知と聞いて「難しそう」「マニアックな……」「なんか棒と箱のやつ」と思ったあなた! そんなことはありません。知覚研究の王道にしてフロンティアをぜひ本書でご堪能ください。



著 森島泰則  
 発行 勁草書房  
 四六判 / 212頁  
 定価 本体2,500円＋税  
 発行年月 2015年12月

もりしま やすのり  
 国際基督教大学教養学部教授。専門は認知心理学、言語心理学。著書はほかに『高次認知のコネクションモデル』(分担執筆、共立出版)、『言語心理学入門』(分担執筆、培風館)、『ビジネス心理検定試験公式テキスト:基礎心理編』(分担執筆、中央経済社)、『現代心理学』(分担執筆、ナカニシヤ出版)など。

# なぜ外国語を身につけるのは難しいのか

「バイリンガルを科学する」言語心理学

森島泰則

国際化する現代、海外旅行や留学、職場や学校、地域で母語以外の外国語を使うことや、母語でなく日本語を使う人々と接することが日常化しつつある。外国語が使えるということは、脳の中に母語とともに二つの言語システムが存在し、混乱をきたさず機能することを意味する。これ自体、認知心理学的に興味深い現象である。二つの言語システムは独立して存在するのか、一つの言語を使っているとき他の言語システムは活動停止するのか、母語ほどに熟達していない外国語を使っているときは

思考能力も低下してしまうのかなど、様々な疑問が生じる。また、これらの疑問を切り口として人間の認知機能の理解を深めることにも繋がる。本書は、バイリンガリズムの心の仕組みを言語心理学の視点から探ってみようというものである。認知心理学や言語心理学の専門知識がなくても読んでもらえるように、記憶や言語、脳構造に関する基本概念の説明も心がけた。心理学分野だけでなく、言語学、言語教育などの関連分野の方々、一般読者の方々にも本書を手にとって頂ければ幸いです。